

郵便振替 口座 1-570 加入者名 あごら札幌

あごら札幌連絡先 通信担当
NO 152 細田英理子 Tel 644-2921 松平明美



1991. 9. 30 発行

— 今月のなかみ —

9月例会報告 …… 1. 2	新しい男たちの …… 4. 5
例会案内 …… 2	ネットワーク通信
女の体にハサミを …… 3	育児休業は夢? …… 6. 7
入山まな (道警ポスターに抗議して)	フェミニストってこいん? …… 7
	情報 …… 8

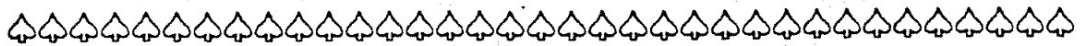
日本からうち捨てられた女たち

朝鮮人従軍慰安婦

9月

例会
報告

9月例会は、金貞礼さんをお迎えして従軍慰安婦の話をしていた。金貞礼さんは、在日韓国人の二世。従軍慰安婦の話をするための場を積極的に求めておられる。日本が朝鮮を植民地にして、多くの男の人達を労働力として日本に連れてきたことはよく知っている。そして、その二世、三世の人達と現在、互に暮らしていることも。しかし、女の人達が従軍慰安婦として戦地に連れていかれたことは、ほとんど知らない。その数、10万人とも20万人ともいわれるが、音類が残っていないので正確にはわからない。あまりの衝撃的な事実のために、出席していたメンバーもなかなか話が出なかった。



軍部は 軍規維持のために朝鮮半島の未婚の娘たちを戦地世につれていった。16歳から30才までを女子挺身隊という名目で募集したり、それで集まらない時には、憲兵や駐在所の巡査が狩り出した。迷行は11に4、迷いは親が拷問に合う。軍隊のいるところにはほとんども、日の丸の旗の立つた慰安所があったという。兵隊には、週一回お風呂をもらって慰安所に行くことが、唯一の楽しみだった。日に数人もの相手をする彼女たちは日本をこわし、また、敗戦と同時に大陸へ捨てられた人も多かった。貞操観念の強い国に帰ることもできず、その実態は、なかなか明らかにされていなかった。

1910年 朝鮮は日本の植民地支配下におかれる

男たちは労働力として日本本土に駆り立てられた

1937年 南京の大虐殺事件
日本兵は電行を働かきレゾ
をほいままにした。

女たちは女子挺身隊として日本に連れ
てられ、その後 南方に連れ去られた

1938年 陸軍は兵隊の士気の鼓舞と、性病予防のために慰安所を直轄した
その後 軍の管理の下に民間が慰安所を経営する形をとっていった

1941年 ドイツとソ連の開戦
満州北部に日本軍を進める
ために慰安婦が必要となる

女工募集という名目で集めていた

1943年 慰安婦二万人徴出の命令が朝鮮総督府から出された。

各村々に割り当て、村役場と警察官が出頭を命じた

1945年 敗戦、日本兵は中国から引きあける

兵隊と一緒に引きあける際に、男たちに群がられて命を
落とした人もいる。

(松平記)

10月例会は*****

都議

三井マリ子さん講演会

に振り換えます

日時 1991年10月19日(土) PM6:00~8:30

場所 西区民センター

主催 暮らしと政治を耕す会 TEL 613-8441

昨年、都のミス・コンテストに応募という形で思いがけない方向から
ミス・コン反対の運動を展開してくれた、三井マリ子さん。19日の夜
は、糸田宅に泊まることは決まっていますし、もしかしたら、18日の
夜も我らと懇談できるかもしれません。予定が確定次第、お知
らせたいと思いますか。アタタからも連絡入れてみて下さい。

TEL 糸田(644-2927) 高橋(563-6917)

道警ポスターに抗議して

女の体にハカミを入れるナ

3年前、北沢杏子さんの性教育講座でクレーマーな外人女性のような姿(商品は車)のポスターを見せられ「きれいだと思います」と言って、彼女のひんしゃくをかった。裸婦の絵や写真を見て「イヤダナー」と思うことはあっても「すまして見ているのが大人の女」と思い込まれ、いつの間にか「嫌」という感情すら抱かなくなっていた。

昨年の“女のからだから”合宿以来、自分の感覚、感情に、まずは正直にならなうと思ひ直してきた。以来、街には不快なポスターが犯濫していることがわかった。ある意味では、そういうものに目をつぶっているほうが生活しやすいものだ。生活しやすい方に流れていくと、だんだん生きやすくなっていく。生き易くするためには、いくつかのハードルを越えなければならぬこともわかった。

その、この夏の道警職員募集のポスター。

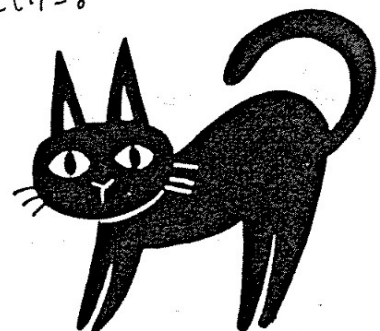
とて黙、こぼいられなかつた。「ちかん」を取り締まるべき警察が「ちかん」の目玉作りのポスター。「ちかん」や「レイプ」の被害者に対し、被害者落度論を展開する警察(官)は、その時点で既に加害者と同じ立場に居る。…とて黙、こぼいられなかつた。もし一人だったら、ハカキ一枚の抗議でかき止らしたと思う。積極的に動き、警察とも丁寧な話し合いをしてくれたY.Mさんか。もし、あんなに仲間の仲間がいなかったら、こぼいられなかつたと思う。

又、都議の三井マリ子さん(1/9 衆議)は早速道警に手紙を書いて援護射撃してくれた。私たちの“抗議”に対し警察は「少しも、警察の権威をゆがかすものではない」との態度に終始していたが、内部では結構ガタついていたようで、都庁警備の警官に、「三井さん、道警にまご文句言ってるようですね」と言われたそうだ。北海道発の微震が首都圏を揺るがす!!

『道新』には3回にわたって掲載され、『毎日』『中日』(各都府方面の地方紙)でも好意的に取り上げられた。『女のからだから』月刊紙でも取り上げられ、Eメールが送られてきた。

前後に出版された『女の叛逆』では『あんなに仲間の仲間』のことで「行動する女性会」や「アジア女性会」のようでもある、と紹介され、私は単純にテレビでいい。

改善されるであろう来年の道警ポスターを見るまで、この一連の動きの中で得られたものは多々あるように思う。これから、少しも生き易くするためにハードルをひとつずつ越えていこう。(高橋)





1991年9月1日

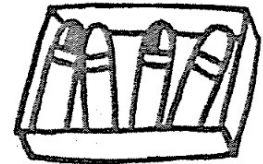
男が男をかえていく

サイレントレター

SILENT LETTER

『新しい男たちのネットワーク通信』

〒003 札幌市白石区本通16丁目北3-1-102
安岡菊之進方 TEL (011) 863-0324



18歳のとき、大学の入学で北海道に来て、はや8年たとうとしています。ぼくの生活は目まぐるしく変わり、いろんなことがありました。大学の中退、19歳の結婚そして出産。25歳での離婚、子供との離別。

離婚しようと思ったこと。離婚して気づいたこと。学んだこと。

まだ、人生をふりかえるには、まだまだ早すぎるのですが、ぼくはこれまでの8年間の間に、決して多くの「男」という性を持っている人には体験できないことを、経験してきました。それは、今現在のぼくの価値観のベースにもなっている尊いものです。これから生きていく上で、それらはとてもとても大切なものになっています。

ぼくの体験したこと、学んだこと、そしてこれからぼくが経験すること、感じることを、それら全てはまったく個人的なことですが、それは、同時にまったく歴史的にも普遍的なことだともいえます。

多くの女性は、「〇〇さんの奥さん」「〇〇ちゃんのお母さん」という代名詞で呼ばれてきました。

まあ、こんなものだと満足できる女性もいます。

どうしても自分という存在にこだわり続ける女性もいます。

やりたい仕事を続けていきたい女性もいます。

家事や育児に疲れ果てた女性もいます。

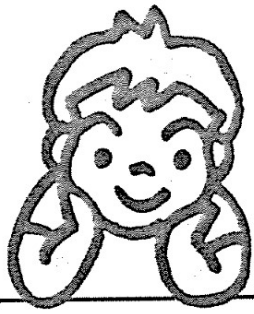
いろいろな理由で離婚という方法をとらなければならなかった女性もいます。

そんな女性たちの声を、どれだけの男たちが肯定できるでしょう。

「男」という性がつすべての役割は、多くの「女」という性をもつ人々の自己犠牲によって成り立っています。それに気づいた女性たちは、男たちをかえようとしています。しかし、なかなか男はかわりません。

なぜこんなにまで男は変わらないかという、今、男には、変わらなければならない、変わろうとする自分をイメージするセルフイメージ（ロールモデル）がないからだと思います。

女が男社会にたいして主張してきたこと。それが「ひとり」からはじまったように、男がうちなるを自分をかえていくのも「ひとり」からはじまっていくのだと思います。



そこで、おこがましいことかもしれないのですが、新しい男たちのネットワーク通信「サイレントレター」を発行してみようと思いました。

フェミニズムは多くの女性たちの生き方をかえ、社会をかえてきました。と同時に「男らしさの神話」を打ち壊してきました。そして、新しい男たちが少しずつです

が生まれてきています。新しい男とは、今までの女と男の分業役割という古い価値観にとらわれないで、たとえば家事や育児や介助をすることのできる男だと思います。

「サイレントレター」という意味は、いろんな思いが込められています。

「サイレントレター (SILENT LETTER)」とは、英和辞典を引いてもらえばわかるのですが、発音されない、語られることのない文字のことです。たとえば[WRITE] (か) の[W] や [E] のことです。

多くの男たちは、サイレントレターにはなりたくないと思っています。かたや女たちは、人間の歴史の上で、いやおうなくサイレントレターであることを強制されてきました。

男たちの世界の中では、家事・育児・介助について、決して語られることのないものでした。それを男同士で語るということはタブーにも等しいものがあります。

男が何かのきっかけで、家事・育児・介助を余儀なくすることになると、ひょっとしたら、会社からも社会からも排斥されるかもしれません。

けれど、イヤイヤながら家事や育児、介助をするのではなく、また肩ひじ張った誇りをもつのもなく、ごくごく自然に、日々の人間の営みとしてその生活を受け入れ、そこから見える景色を大切にできればどんなにすばらしいだろうと思います。そこから社会のゆがみを見つめ直すことができたならどんなにすばらしいでしょう。

そもそも男エゴの社会自体が問題なのです。そんな社会に対して、静かにあまり肩ひじ張らないでメッセージを発信したいという意味も込めて、通信の名前を「サイレントレター」にしてみました。(と、さも自分が考えたと言えばカッコイイのですが、ネーミングのヒントを得たのは、落合恵子さんのエッセイからだということをごここに記しておきます。)

いまだ、どれだけの人と結びつきができるかわからないのですが、まずは個人通信のように発行していきたいと思っています。

隔月で発行したいと考えていますが、ひょっとしたらこの1号だけで終わるかもしれません。無理のない程度にしたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(安岡 菊之進)

あごら通信購読会員の安岡さんから「サイレントレター」という個人通信を頂きました。とても素敵な内容だったので了解を得て転載させて頂くことにしました。東京や関西の方では「男の子育てを考える会」とかフェミニズム運動と運動する形での男達の運動があるのは知っていましたか。私隈ごもついにこういう人があらわれたのかとうれしくなっていました。

“男が男を変えていくー” これからはこうで「おっちゃんネ!

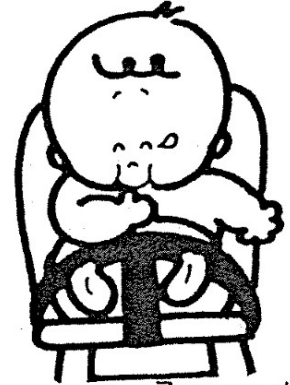
育児休業は夢？

吉野 理佳

「中央区で子供生むなんてとんでもない。他の学校に行ってくれ。」ある小学校の先生が校長にそう言われた。札幌市内の小学校には、不文律の格のようなものがあつて、中央区は格上という意識が教育関係者にはあるという。もちろん、そこで働く教職員にもエリート意識があつて、夜遅くまでの会議、研究授業なども意気に感じてやるのだ。そうた。教育熱心であることに異論をはさむつもりはないか。この校長は子供を生んで産休、育休などを取らなければ、忙しく働いている同僚にも学校の生徒にとっても迷惑だと言うのだ。さらには「軍じぶかしいから、妊娠したなんて他の先生にも言うもんじゃない」とフキを刺したという。

産休や育休に入ると、代替の先生が来るため「担任が変わるのは困る」「子どもの勉強が遅れる」と父母から不満の声が上がるというケースはよく聞く。北海道では、

「母と女性教師の会」というのを作っていて、こうした問題を親と先生が忌憚なく話し合いながら、理解を深め合っている。それでも、教育現場でこんな言葉を投げつけられてしまうケースはまだたくさんある。



女性の数が多い(札幌市内の小学校教員は女性が過半数を超える)、制度的に産休が保証され、取得率が九割以上の教員でさえ、こんな状態である。民間企業、特に女性が少なく、労働条件の厳しい企業では、育児休業法ができたところで、急に揃ったモウになつてしまうのは目に見えている。

何か変わらなければならぬのか。男性の意識、社会全体の労働時間短縮、人間らしいゆとりのある生活……いろいろあるけど、私はかなり悲観的になっている。この手の話は、入社(1年前)以来、同じことを繰り返すずっと書き送っているが、少なくとも、自分の会社の同僚たちは



ほとんど変わっていない。私が今「育休取れたんです」って言ったら「この人が足りない時に、一体どうするんだ」と大騒ぎになるだろう。要員不足で過酷な労働力を強いるのは会社のせい、私の穴は会社が責任を持って考えるべきなのだと言ったところで理解はしてもらえないだろう。そして、最後に言われてしまうのだ。「やはり女性記者なんかいない」と。大先輩の女性記者が言っていた。「私もなんか20年前から同じこと言ってるけど、全然変わんないよ」と。この頃、ため息の数が多くなっている。

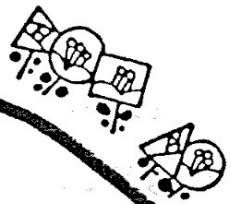
(毎日新聞北海道支社 報道部) For Lady



フェミニストって誰かい人?

先日、北海道にも性教育のサークルがあることを知り、合宿に誘われ釧路まで行って来た。性教育に熱心な人達で、「男女平等の視点で教えるなくてはならない」ということは全員一致してた。男女混合出籍簿にこだわっている人もいたし、例会で“聖子バックスニア”、マクネスの子連れ論争ととりあつかっているグループの人かいたりと、私と似たような関心を持っている人が多々、ように感じた。それで、私がフェミニズム運動のグループに関わっていて、これから性教育に関心をもちたいと自己紹介したところ、どうもこわい人という一種特別のイメージでみられたように感じた。同じような関心を持ち、同じような行動力をしている人でも、フェミニストと聞くと一種特別のイメージがあり、“自分とは違う人”と思ってしまうのだろうか? もっと仲良くなって個人的な話をしたらそういうイメージは消えるのかもしれない。さっと考えさせられてしまった2日間だった。

糸田 英理子



市民ネット 中島和子さんか
代表質問

「市議会傍聴」

とき 10月9日 12:45
とこ 市役所1F2F集合

遅くて来たら直接18F
傍聴席へ

第37回 札幌市母と女
教師のつどい「分科会」

とき 10月19日(土) 14:00~
とこ 二条小学校(南2西15)
連絡先 561-2278

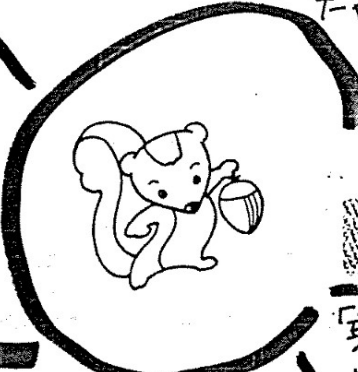
「ともに生きよう」
テモ行進

とき 10月5日(土) 13:30~
とこ 道庁赤レンガ前集合

障害を持つ人が自分の意思を
示すテモをしたい

連絡先 832-7187 茶井
823-4767 土井

- テーマ
- ①小学生の問題
 - ②中学生の問題
 - ③子どもと保護者
 - ④教育内容の問題
 - ⑤平和の問題
 - ⑥学校給食と公害
 - ⑦女性の問題



INFORMATION

「新議員から見た札幌市議会」

とき 10月15日(火) 18:00~

講演の講師 佐々木いづ子
中島和子
KKR 札幌

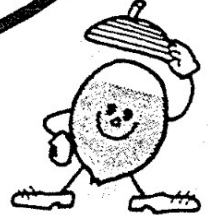
とき 11月9日(土)
とこ 共済ホール
講師 村瀬幸浩
札幌都市研究センター
251-5565

「幼児・小学校低学年の
性教育」

とき 10月12日(土) 14:00~
とこ 東区民センター別館

講師 細田英理子
連絡先 782-3338
(松平)

映画
「子どもと保護者」 14:00~
「若人よ」 17:15~
札幌映画ホール
747-7314



あ
と
か
き

私は東区のはすかに住んでいて子供を学校に通わせた。確かに東区は教育程度が高いといわれ親もそう信じている。勤務時間中テレビで時代劇を見てた校長先生もいたし。中央区の先生といっしょに教育熱心なのか？ それと、学校は親の意見は丸となってつぶすとはあっても、取り上げることはないと思っ
ていたけど、実は非常に気にしてあることか (松平)